

# 擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和6年 12月6日(金) Vol.31

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

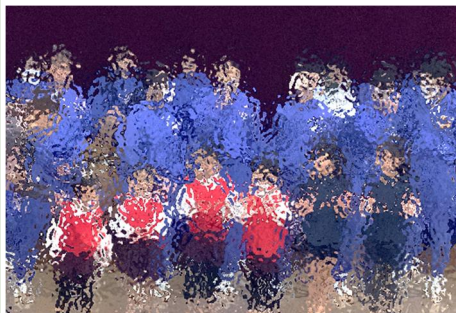
「仲間も自分も大切に」「感動・感謝を大切に」  
「団結・協力を大切に」「命を大切に」



【ホームページへ】

## よく遊び、よく学び、よく育て

3日(火)、3Aが家庭科の授業の一環で、幼稚園実習を行いました。園児たちは、「この前遊びに来た中学生が、今日もまた来るの!？」と、ワクワクした様子で中学生を迎えてくれました。対する中学生も、予想を遙かに上回るような、園児たちの愛らしさに、笑顔がこぼれ、心が浮き立ちます。お互いに、いい時間を過ごすことができました。



【恒例の5歳児 vs 15歳児・背比べ。10年の間に、心も体も成長した中学生が、園児たちの姿に、10年前の自分を思い浮かべているようです】



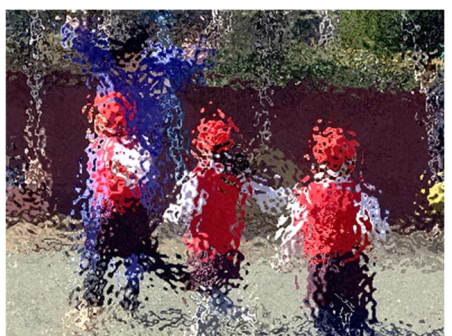
【授業で作った名札を示して、「〇〇の名札を付けています。よろしくお願いします」と中学生。元気に挨拶を返す園児たち】



【「絵本を読みませう」と、中学生が用意してきた絵本を取り出すと、園児は「わーい」と喜び、身を乗り出して聞いていました】



【人気スポット、砂場。ケーキ屋さんになったり、道路工事をしたりと自由自在。中学生も昔の勤を取り戻して楽しんでいました】



【中学生が、わりと本気で逃げしてくれるので、園児が大喜びの鬼ごっこ。いつ捕まらるか、このスリルがたまらない!】



【園庭の片隅にあった落ち葉を、お近づきの印に、中学生にプレゼント。イチヨウの葉と園児の手は、同じくらいの大きさでした】



【今、別れのとき……「私たちはもうこれで帰るね。今日は6時間目まで授業があるんだよ……」と多くの中学生が思ったことでしょうか。落ち葉などのお土産をもらい、「オベンキョー、ガンバッテネ!」と激励を受けた中学生は、帰り道も「かわいかったね」「癒やされたね」と口々に言いながら歩いていました】

明るい笑顔で一生懸命遊ぶ園児の姿に、中学生はすっかり魅了されてしまいました。手をつなぎ、並んで歩く中で、その小ささ、はかなさを体感したことでしょう。かつては自分も小さかったことを、思い出したのでしょうか。大切に育てられている園児とのふれあいを通して、保護者の愛情や、見守る人々の気持ちを、思いやることができるとよいです。

「子どもは、3歳までに一生分の親孝行をする」という言葉を聞いたことがあります。中学生が園児と活動をともしながら楽しい時間を過ごせたように、今の中学生も、たくさんの人を笑顔にし、励まし、元気を分けてきたのです。

そして、自分も、周りに大切にされて、ここまで成長した、ということに気付いた生徒も、きっと多かったことでしょう。

将来、保育士や学校の先生などを希望している生徒も、3年生の中にいます。今回の実習を通して、その思いがさらに強くなっ



た、という声も聞こえてきました。このような活動が、生徒の将来を照らす灯りの一つになるのなら、こんなにうれしいことはありません。

## 誰かのために・自分のために

1日(日)は、早朝からたくさんの本校生徒が、ボランティアとして活動した日でした。

まずは、朝8時半。中台地区の美化活動があり、本校生徒36名が、ゴミ袋やトンクをもって、ゴミを探して歩きました。



【ずらりと並んだ生徒の姿に、社会福祉協議会の方が感動していました】



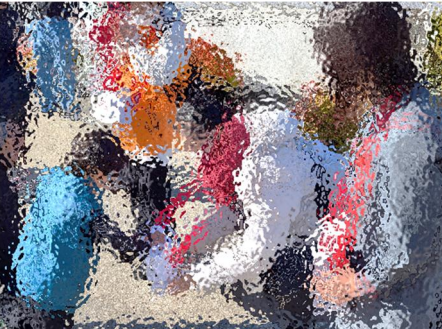
【1年女子のグループは、溝の中の吸い殻も見つけ出して拾っていました】



【こちらは2年男子。誰がたくさん見つけたかなど、わいわい言いながら活動中】

生徒たちは、あちこちに散らばって、目ざとくゴミを拾っては歩きました。街をきれいにすることは、誰もが喜ぶことであり、もちろん自分にとっても、喜びや幸せにつながるものですね。

つづいて、10時。3年生女子5人が「歳末助け合い運動」の街頭募金に参加し、JR、京成のそれぞれの駅前に立って、11時半頃まで、明るく元気に呼びかけました。



【JR駅東口に立つ3人は、人の行き来が激しい中で積極的に呼びかけ。外国籍の方を見ると「ドネーションプリーズ」と英語でも呼びかけました。JR駅西口で呼びかける2人は、バスの乗降客に向かって呼びかけをしました。募金してくださった方に拍手を送るなど、ささやかながら温かい雰囲気感謝の気持ちを伝えていました】

老若男女を問わず、様々な方が協力してくださいました。親御さんが財布から小銭を出して子どもに手渡して、「入れといて」と募金を促している光景も見ました。中学生が満面の笑みでお礼を言うと、その子も親御さんもうれしそうに笑顔で立ち去っていきました。いい光景でした。

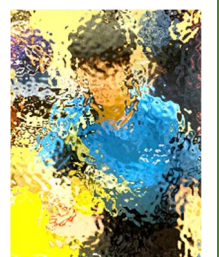
寄付した人は、「寄付したなあ」とほのぼのした気持ちになり、募金活動に取り組んだ人は、「誰かの役に立ててよかったなあ」と満足感にひたり、募金に支えられた人は、人々の善意に触れて、その温かさをしみじみと感ずることができる…

…。そんな気持ちのやりとりがぐるぐる回っていくといいですね。「情けは人のためならず」。誰かのためにと考えた行動は、きっと自分のためにもなるものなのです。

余談になりますが、私が幼かった頃、私の母は、街頭募金に小銭を寄付するとき、「どこかで泣いている赤ちゃんの、ミルク代やおむつ代の足しになるだろうから」と、よく口にしていました。その言葉は、今も私の心に残っています。

それ以来、私は募金をする度に、「ミルク代・おむつ代になりますように」と心の中で唱えているのです。

## いざ、県大会！



【7日(土)、卓球の県大会に、本校から、3人が出場します。毎日、こつこつと練習を重ねてきました。県大会ならではの緊張感の中で、声を出して、自分らしいプレーができるよう応援していますよ！】